

レディース100年の森林業グループ

内閣府が主催する平成21年度「女性のチャレンジ賞」を受賞

本町で女性林業グループとして活動しているレディース100年の森林業グループ（鷹嘴充子会長・会員10名）がこのたび、内閣府が主催する平成21年度「女性のチャレンジ賞」を受賞されました。レディース100年の森林業グループは、本年2月に、平成20年度北海道男女平等参画チャレンジ賞「輝く北のチャレンジ賞」を受賞しており、それに続いての受賞とあって、会員の皆さんも大変喜んでいきます。

「女性のチャレンジ賞」は、平成15年4月に男女共同参画会議において決定された「女性のチャレンジ支援策」において、身近なチャレンジの事例を提示するために、活躍する女性を顕彰する「女性のチャレンジ大賞」制度創設の検討が提言されたことを受け、起業、NPO法人での活動、地域活動等にチャレンジすることによって輝いている女性個人、女性団体・グループおよびそのようなチャレンジを支援する団体・グループを顕彰し、チャレンジの身近なモデルを示すことによって男女共同参画社会の実現のための機運を高めることを目的として、平成16年度から実施されています。

レディース100年の森林業グループは、平成2年に不在地主が所有する山林が売りに出されたことがきっかけとなり、カラマツ林約13ヘクタールを10区画分割し、10人の女性が山林所有者となり、平成3年6月に道内初の女性林業グループとして発足しました。



小淵優子男女共同参画担当大臣から表彰を受ける鷹嘴会長（左）

発足後、「森と人との結びつき」をテーマに、自ら枝打ちや下刈り作業を行いながら、自らの森を会員やほかのグループなどとの交流の場にするため「実習林」とし、地場産カラマツを利用したログハウスを建設し、研修の場としてきました。

また、「森林を育て、水資源や環境を守る」をテーマに森林ボランティアグループ「緑とエコサポーターネット」との植樹など、他の分野との交流を行い、地域の親子や子どもたちを対象とした森林教室の開催や公共施設などへの花壇の設置など、地域環境づくりの活動を積極的に行ってきました。

男性社会と変わりがちな林業の世界で、女性ならではの視点と感性で山と向き合い、森林の大切さ、森との共存、癒しの大切さを積極的に発信してきたこれまでの活動が、女性切りの意欲と能力によって未来を切り開いていくモデルとして傑出したものであると認められ、このたびの受賞となりました。

6月26日に総理大臣官邸で行われた表彰式には、鷹嘴会長が出席し、小淵優子男女共同参画担当大臣から表彰状が手渡されました。6月30日には、鷹嘴会長をはじめ、会員の皆さんが役場を訪れ、池部町



池部町長の元へ受賞報告に訪れた会員の皆さん

長に受賞の喜びを報告しました。鷹嘴会長は、「男女共同参画社会基本法が制定されて、ちょうど10年の節目に、このような賞をいただき、とてもうれしく思っています。これまでの日々の活動が評価され、皆で頑張ってきたよかったと思っております。グループ発足後18年になります。会員がお互いに協力し理解をしながらやってきた成果であり、会員同士の結束が強かったからこそ、ここまで活動が続けられたと思います。今後は、今まで以上に活動の場を広げて、森林の大切さを更に発信していきたい。」と話していました。

友好の町 6年生児童が本部町を訪問 南の国の真夏に挑む体験の旅

「友好の町」沖縄県本部町との間で平成3年から行われている親善交流事業は今年で19回目を迎え、「南の国の真夏に挑む体験の旅」として、6月29日から7月3日までの4泊5日の日程で、南富良野町交流団（各小学校6年生児童25名・随行者4名）が本部町を訪れました。



一行は、飛行機を乗り継ぎ、午後5時前に本部町に到着。児童の皆さんは、熱烈的な歓迎を受け歓迎夕食会に出席し、体験の旅での抱負を元気に述べ、よさこいソーランの舞を元気に披露しました。また、今年1月に南富良野町を訪問した本部町の児童との再会も果たし、交流を深めました。

翌日には、伊豆味パイン園の見学や上本部小学校児童との交流、バナナポート体験を楽しみ、3日目には、児童の皆さんが一番楽しみにしていた美ら海水族館の見学や海水浴などを行いました。この日の夜には、ホームステイ先の家庭で、家族との交流を深めました。

4日目には本部町を離れ、ひめゆりの塔、平和の礎などを見学。翌日には、真っ黒に日焼けした姿で元気に帰町しました。7月17日に行われた解団式では、児童一人ひとりから発表があり、美ら海水族館の見学や海水浴、バナナポートの体験がいっぱい出たことと感想を話していました。また、ホームステイでの交流も楽しかったとの声もありました。

来年の2月には、本部町交流団が本部を訪れ、冬の北海道を体験する予定です。

有事に備え日頃の訓練成果を披露 南富良野消防総合演習

平成21年度富良野広域連合南富良野消防総合演習が7月5日、消防職員と消防団員、特別参加の陸上自衛隊上富良野駐屯地第四特科群第131特科大隊の隊員など合わせて100名が参加して、幾寅小学校グラウンドを会場に行われました。

開会式に引き続き行われた、陸上自衛隊上富良野駐屯地第四特科群第131特科大隊による展示訓練では、幾寅地区で震度7の地震が



自衛隊員による展示訓練



消防隊員による展示訓練



模擬火災訓練

発生し、家屋が倒壊したことを想定して行われ、消防団員や多くの来賓が見守るなか、陸上自衛隊に装備されている人命救助システムを使用し、本番さながらにがれきの下になっていた住民を素早く救出しました。

南富良野支署消防隊による展示訓練では、一般住宅から異臭が発生したことを想定して行われ、隊員が現場周辺のガス濃度を計測したあと、空気呼吸器を装着した隊員が、建物内を捜索し、逃げ遅れた2名を救出しました。

このほか、各分団による小隊訓練やポンプ操作、模擬火災訓練などが行われ、日頃の訓練成果を十二分に披露しました。

また、会場では、第131特科大隊による指揮通信車の体験搭乗会が行われ、小学生や幼児らが搭乗を楽しんだほか、最大250名分の食事が45分以内に調理可能な炊事トレーラによる調理が行われ、出席した来賓や団員、関係者にカレーライスが振舞われました。